



## 小学校・低学年

	書名	本の紹介
1	あいうえおうさま	あいうえおうさま、あさの あいさつ。あくびを あんぐり、ああおはよう……。文字と言葉の愉快的な絵本。
2	あしのうらのはなし	馬の足の裏って、どうなのか？ ゴリラのは？ 動物から、人間から、足の裏が総登場。またまた、絵本の中で遊びながら足の裏の進化と機能を考えていく。
3	エルマーのぼうけん	心優しい少年が空飛ぶ竜の子を助け出す愛と勇気の物語。
4	おいしいのぼうけん	さくらほいくえんにはこわいものが二つ。一つはおいしいで、もう一つはねずみばあさん。ある日、いたずらをやめなかったさとしとあきは……。
5	おばあちゃんがいるといいのにな	おばあちゃんが、いるといいのにな。いえのなかにでーんと一人、おばあちゃんが、いるといい……。心優しいおばあちゃんと孫の交流と別れをほんのりあたたかく描いた絵本。
6	からすのぱんやさん	いずみが森のからすのパン屋さんが、おいしい、すてきなパンをどっさり焼くと、店先で大騒動が起こっていく。
7	きみはほんとうにすてきだね	大昔、暴れん坊で意地悪で、ずるくて自分勝手な恐竜がいた。そんな恐竜にも、ふたりでいると、優しくなれる、たったひとりの大切な友だちがいた。
8	くまの子ウーフ	遊ぶこと、食べること、そして、考えることが大好きなくまの子ウーフ。ほら、きょうもウーフの「どうして？」が聞こえてくる。
9	じごくのそうべえ	上方落語『地獄八景』を題材とした話。—東西で千に近い落語があるが、スケールの大きさといい、奇想天外な発想といい、類のない大型落語。
10	14ひきのあさごはん	新しいすみかをもとめて、14ひきのねずみの一家の大移動。野をこえ、谷をわたって、着いたところは……。



## 小学校・低学年

	書名	本の紹介
11	スーホの白い馬	貧しいけれど働き者の羊飼いの少年スーホ。草原で拾った白い子馬を一生懸命に育てるのが…。少年と馬との悲しくも美しい民話。
12	ともだちや	ある日、キツネは「友だち屋さん」を始めることを思いついた。1時間100円で友だちになってあげる。森で一番のさびしんぼうのキツネは友だちを上手に作れるのか。
13	どんなかんじかなあ	友だちのまりちゃんは目が見えない。それで考えたんだ。見えないってどんな感じかなあってー。ひろくん、そして彼のともだちの話が、いろいろな考えをはこんでくれる絵本。
14	にじいろのさかな	虹色に輝く鱗を持つ世界で一番美しい魚。でもひとりぼっち。僕はこんなにきれいなのに、どうして誰も好きになってくれないのか たこのおばあさんが教えてくれたその悩みの解決法は…。
15	はちうえはぼくにまかせて	夏休みに近所の人のお鉢植えの世話を始めたトミー。家中にたくさんの植木鉢があふれ、植物もどんどん大きくなっていく。そこでトミーが考えたのは…トミーのアイデアにみんな大喜び！
16	はなのすきなうし	むかしスペインの国に、花のすきなフェルジナンドという子牛がいた。ある日、5人の見知らぬ男がやってきて、フェルジナンドをマドリードの闘牛場へ連れていった。
17	バムとケロのにちようび	犬のバムとかえるのケロは大の仲良し。開くたびに新しい発見がある愉快的な本。
18	ぼくのいのち	おばあちゃんのお蔵で見つけた、ぼくの小さな頃の写真。ぼくって、白血病だったんだー。著者が長年臨床の現場で成熟させてきた、生きる子、逝く子への思いが詰まった絵本。
19	ほんとのおおきさ動物園	小さなネズミから大きなゾウまで、動物の顔を実物大の写真で紹介。横に長く開くワイドページでは、首の長いキリンの大きさもわかる。「目の下に長いひげがちらほら」など、写真を見てわかる特徴も掲載。
20	やまのえき	山あいにある、赤字ローカル線のため廃止寸前のやまのえき。帰省していた息子を見送りに、町に住む孫に会いにとさまざまな想いをだいて村の人々が集まってきた。